

04
PRE-EVENT

さいたまトリエンナーレ2016 プレイベント

マイクロレジデンス・ネットワークフォーラム 2015



SAITAMA
TRIENNALE
2016
さいたま トリエンナーレ 2016

MICRO- RESIDENCE NETWORK FORUM

2015年11月22日(日)・23日(月・祝) 2日間開催

会場: 国際交流基金日本語国際センター、岩槻駅東口コミュニティセンター

参加無料
(事前申し込み)

HB
オプションツアー
HomeBase Project
SAITAMA 2015 会場

国際的な創作活動の場である「アーティスト・イン・レジデンス(AIR)」の現在を知るため、世界中に広がる「マイクロレジデンス」(小規模で質の高いAIR)をテーマとしたフォーラムを開催します。国内外のAIRディレクター、アーティストを招き、アート、まちづくり、教育などの多分野を横断する活動紹介を行い、さいたま市独自のAIRについて考えるとともに、さらなる国際AIRネットワークの発展をめざします。

【主催】さいたまトリエンナーレ実行委員会 【共催】AIRネットワーク準備会、マイクロレジデンス・ネットワーク 【後援】駐日イスラエル大使館、オランダ王国大使館、忠北文化財団、忠清北道、韓国文化芸術委員会
【協力】国際交流基金、欧州文化首都ブルゼニ2015実行委員会、EU・ジャパンフェスト日本委員会、西ポヘミア大学デザイン・アート学部、埼玉大学石上城行研究室、女子美術大学アート・デザイン表現学科
アートプロデュース表現領域、東京藝術大学O Jun研究室、武蔵野美術大学長沢秀之研究室、東京造形大学生嶋順理研究室、遊工房アトスペース、特定非営利活動法人アートNPOリンク
【助成】文化庁(平成27年度 文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業)

Microresidence Network



충북문화재단
Chungbuk Cultural Foundation



한국문화예술위원회

2015 Pilsen
European Capital of Culture



11
SUN 22

DAY1:全体会 (定員:120名)

[基調講演]
アーティスト・モビリティと文化外交における
マイクロレジデンスの意義、役割
マリオA. カロ (Res Artis理事、前代表)

[プレゼンテーション&ディスカッション]
世界のAIR、多様なネットワークング、文化交流のかたち

Case 1
Microresidence Networkとは～
活動事例と今後の展開
村田達彦 (マイクロレジデンス・ネットワーク、遊工房アートスペース)

マイクロレジデンス・ネットワークの提唱者である遊工房アートスペースは、東京の杉並区の住宅地を拠点に、日本の独立系AIRの草分け的存在として、国内外のアーティストの活動を支援してきました。現在、マイクロレジデンス運営者間のネットワークング活動を活発化させ、アーティストおよび運営者の育成と、社会におけるAIRの顕在化に注力されています。欧州文化首都との取り組みをはじめとしたこれまでの活動と、今後の展開についてお話をいただきます。

11
MON 23

DAY2：分科会 & オプショナルツアー (定員:各セッション40名／総括120名)

Session 1
世界の多様なAIRから～
マイクロレジデンスの魅力と可能性

マイクロレジデンスの大きな魅力のひとつは、自由でフレキシブルな発想と運営方法にあります。このセッションでは、主にアーティストが主導して行うAIRプログラムのディレクターにより、アートイニシアティブの手法、ネットワークングの実践者からの事例発表と、AIRの可能性についてディスカッションいただきます。

◎発表者：エイ・コー (New Zero Art Space/ミャンマー)、ミクリッチ・トノヤン (ACOSS AIR/アルメニア)、
テーホー・ハン (Public AIR/韓国)、坂本泉 (AIR/山梨)、飯島浩二 (C.A.J AIR/さいたま)
◎進行：小田井真美 (Move arts Japanディレクター)

Session 2
AIRと教育現場との協働、実践～
ECOCとの連携とY-AIR構想

マイクロレジデンス・ネットワークでは、次世代を担う若手アーティストの育成のため、教育現場(藝大・美大)とAIRとが連携する国際プログラム「Y-AIR」に取り組んでおり、欧州文化首都事業と連携し、チェコ、ブルゼニ市との若手アーティストの相互派遣および、西ポヘミア大学サマーアートキャンプへの学生派遣を行っています。本分科会では2015年度の派遣アーティスト、学生によるプレゼンテーションと、今後の展望、可能性について議論します。

◎発表者：三原聡一郎 (アーティスト/OPEN AIR)、ミカル・カブ (アーティスト/遊工房アートスペース)、
町田久美 (画家/「ArtCamp2015」講師) およびArtCamp2015参加学生
◎進行：辻真木子 (遊工房アートスペース)

Session 3
地域とAIR～文化の継承、地域資源、
社会・市民・アートをつなぐ場づくり

今、地域振興やまちづくりにとって、アートは重要な要素となっています。中でも、地域とアートをつなぐ役割を担い、文化の継承、地域資源の活用を積極的に行うAIRの存在が注目されています。地域が持つさまざまな社会課題に対する取り組みについての事例報告と、これらの活動への期待、今後の地域・まちづくりの展望について語り合います。

◎発表者：アナット・リトウィン (HB Project)、萩原さとみ (ファーム・インさぎ山/さいたま)、
三上清仁 (AIR Onomichi/広島)、森純平 (PARADISE AIR/千葉)
◎進行：菅野幸子 (国際交流基金コミュニケーションセンター プログラム・コーディネーター)

総括
Life×Community×Art:
AIRでつなぐ、デザインする私たちの未来

3つのセッションを含む2日間の発表、議論を共有します。私たちが、ひとりひとりの未来を描き生きるため、アートの枠組みを越えた世界での多様なAIRの活動と意義、今後の発展について話し合います。

◎発表者：小田井真美、辻真木子、菅野幸子
◎コメンテーター：マリオA.カロ、柴田尚 (S-AIR代表、AIRネットワーク準備会)
◎進行：日沼禎子 (さいたまトリエンナーレ2016プロジェクトディレクター)

世界で最も大規模な国際AIRネットワークング組織「Res Artis (レザルティス)」は、1993年の発足時から現在まで、さまざまな社会変化がおきる中、持続可能なAIRのあり方を求め、各国・各地域で固有の活動を行うAIR団体、実践者、研究者とのフェイス・トゥ・フェイスのミーティングによる情報交換・交流の場を設け、AIR運営にかかる課題解決と活動の発展に寄与されてきました。世界のさまざまなAIRの状況を見つめ、支援を行ってきたマリオA.カロ氏より、文化外交としてのAIRの役割、特に、世界中に数多く存在するマイクロレジデンスの意義についての考察をうかがいます。

Case 3
パフォーミングアーツにおける
AIRの可能性
丸岡ひろみ (国際舞台芸術交流センター理事長、TPAM事務局長)

国際的な流れの中、パフォーミングアーツの分野においてもAIRへの需要が高まる近年、日本でもさまざまな活動が行われています。中でも国内外のパフォーミングアーツにおけるアーティスト、制作者の交流・ミーティングを目的とした「TPAM」の取り組みは、国際交流のプラットフォームとして世界でも最も注目されるプロジェクトのひとつです。なぜ、ミーティングが重要なのか。活動内容とその意義についてご紹介いただきます。

| | |
|-------|--|
| 22 | 全体会 場所：国際交流基金日本語国際センター(ホール) (逐次通訳) |
| 13:00 | 主催者あいさつ |
| 13:05 | さいたまトリエンナーレ「未来の発見!」 概要および本イベントの主旨について |
| 13:15 | メッセージ 柴田尚 (AIRネットワーク準備会) |
| 13:20 | [基調講演] アーティスト・モビリティと文化外交における マイクロレジデンスの意義、役割 マリオA.カロ (Res Artis理事、前代表) |
| 14:20 | ブレイク |
| 14:30 | [プレゼンテーション&ディスカッション] 世界のAIR、多様なネットワークング、文化交流のかたち Case 1 Microresidence Networkとは～ 活動事例と今後の展開：村田達彦 (遊工房アートスペース) Case 2 HomeBase Project アートと社会をつなぐ～ノマド型国際AIR: アナット・リトウィン (HomeBase Project創設者、アーティスト) |
| 15:30 | ブレイク |
| 15:40 | Case 3 パフォーミングアーツにおけるAIRの可能性: 丸岡ひろみ (国際舞台芸術交流センター理事長、TPAM事務局長) パネルトーク、Q & A [進行:日沼禎子] |
| 16:30 | 終了 |
| 17:00 | 懇親会 |

23 分科会&オプショナルツアー
場所：岩槻駅東口コミュニティセンター
HomeBase Project SAITAMA 2015会場
(逐次通訳)

| | |
|-------|--|
| 10:00 | 分科会 Session 1: (多目的ルームA) 世界の多様なAIRから～ マイクロレジデンスの魅力と可能性 Session 2: (多目的ルームB) AIRと教育現場との協働、実践～ ECOCとの連携とY-AIR構想 Session 3: (多目的ルームC) 地域とAIR～文化の継承、地域資源、 社会・市民・アートをつなぐ場づくり |
| 11:30 | ブレイク |
| 11:40 | 総括 (多目的ルームA) Life×Community×Art: AIRでつなぐ、デザインする私たちの未来 |
| 13:10 | 終了 |
| 15:00 | HomeBase Project SAITAMA 2015オープン・ハウス、 アーティスト・トーク見学 ※東玉社員寮に各自ご集合下さい。 |

[オプショナルツアー]
HomeBase Project SAITAMA 2015オープン・ハウスの見学会を行います。
場所：人形の東玉 社員寮
(〒339-0057 埼玉県さいたま市岩槻区本町3丁目10-2)※地図裏面
[資料コーナー]
国内外のAIRプログラム、施設の資料閲覧コーナーを会場に設けます。

登壇者プロフィール

| | |
|---|--|
|  マリオA.カロ Mario A. Caro Res Artis理事、前代表。N.Y.在住の研究者、キュレーター、現代美術評論家。研究テーマはミュージアムにおける先住民文化の表現、写真の実践における郷愁の美学に属するビジュアル・プロダクション、コロンial・ディスコースの美術史的方論と創作などがある。アカデミックな分野を通して、世界の様々なコミュニティの文化交流の促進に務めている。 |  村田達彦 Tatsuhiko Murata 遊工房アートスペース共同代表。創作・展示・滞在のできる遊工房アートスペースを、村田弘子と共同で運営する。20年もの間、15ヶ国、200余の海外からの滞在制作アーティストをサポート。2010年から、マイクロ独自の運営をしているAIRを「マイクロレジデンス」と名付け、国内外のネットワークを通じ、顕在化、社会装置としての役割について調査・研究している。2014年までRes Artis副代表兼理事。 |
|  アナット・リトウィン Anat Litwin HB創設者、アーティスト、キュレーター、研究者。現在、エルサレム市が運営するアートセンター「Beita」のディレクターを務めている。2001年ベサレル・アートアカデミー卒業、2005年アーツ・フロム・ハンター大学修士課程修了。イスラエル、日本のギャラリー等で展覧会を行い、アンディ・ウォーホルキュレーション研究奨学金を得て、Guggenheim Lab、ResArtis、ヴォルタ・アートフェア等でHBについて事例発表を行った。 |  丸岡ひろみ Hiroimi Maruoka 国際舞台芸術交流センター(PARC)理事長。2005年よりTPAM(11年より国際舞台芸術ミーティング in 横浜)ディレクター、舞台制作者オープンネットワーク(ON-PAM)副理事長。08年・11年TPAMにてIETMサテライト・ミーティング開催。その他「PPAF(ポストメインストリーム・パフォーマンス・アーツ・フェスティバル)」、サウンドに焦点を当てたフェスティバル「Sound Live Tokyo」、アーティスト・イン・レジデンスについての国際会議「AIR@TPAM」の企画運営など、舞台芸術の振興と国際交流推進のための活動を行っている。 |
|  エイ・コー Aye Ko アーティスト、『ニュー・ゼロ・アートスペース(New Zero Art Space)』創設者。1963年、ミャンマー、バティン生まれ。ポストモダンアートの時代を担う一人。99年からパフォーマンスアートを取り入れ、バンコクで開催された第二回アジアトピア(Asia Topia)にて最初のパフォーマンス作品を発表。99年から2015年まで海外30カ国以上、国内50カ所以上の展覧会に参加、個展を行う。08年にミャンマーにおける現代芸術の発展を目指した『ニュー・ゼロ・アートスペース(New Zero Art Space)』を設立。 |  テーホー・ハン Taeho Han Public AIR 代表。南ソウル大学および昌原大学講師。1979 年ソウル生まれ、清州市在住。2010年にプレメン芸術大学卒業。Public AIRは2010年に非営利組織として設立。視覚芸術、文芸、音楽に取り組み若手のアーティストに、スタジオ、展示会場、手頃な住宅等により良い環境を提供することで彼らの活動を支援している。 |
|  ミクリッチ・トノヤン Mkrtych Tonoyan アーティスト、AKOS Cultural NGO代表、ACOSS AIRディレクター。1990-94年、兵士としてナゴルノ・カラバフ戦争に巻き込まれ、死、破壊、絶望に直面し、その経験は今でも彼の創造的、社会的な活動に大きな影響を与えている。アートを通して危機に取り組み、個人、社会、政治、理想とは何かを捉え直す活動をしている。 |  坂本泉 Izumi Sakamoto 山梨県甲府市生まれ。女子美術大学卒業後、美術館勤務・教師を経て渡米。帰国後の2005年元産院をアートスペースに改修し、Artist In Residence山梨「AIRY」を立ち上げ、今年、10周年記念事業山梨県内4カ所結ぶAIR「We breath AIRー同時多発どこでもAIR」を実施。またと人、アーティストと地域の人々を結びプロジェクト多数。山梨県初のインターナショナルAIR代表として活動を続けている。 |
|  小田井真美 Mami Odai AIR勉強家、Move Arts Japanディレクター、さっぽろ天神山アートスタジオ ディレクター。1966 年広島市生まれ。2008年から2009年まで国際的なAIR研究機関Trans Artists(アムステルダム)に派遣され、オランダの文化政策、AIRと芸術家支援に関する調査研究を行う。アーカスプロジェクト・ディレクター(2010-11)、アーツ千代田3331のMove Arts Japanポータルサイト運営を歴任。現在は札幌を拠点にアーティストの移動の促進と国内のAIR事業立ち上げを支援する活動を全国各地で行う。 |  飯島浩二 Koji Iijima C.A.J. AIRディレクター、美術家、総合格闘家(MMA)。1973年 横浜生まれ、さいたま市在住。1997年武蔵野美術大学卒業後、同大学の助手及び講師を務めながら格闘家としてのデビューを果たす。2007年にL.A.に移住し、アーティストとプロ格闘家として2011年まで活動。立体作品とパフォーマンスとを結合させ、観客とのコミュニケーションを誘発する作品群を発表。2004年光州ビエンナーレ(韓国)、2009年「The Earth Art Festival」(メキシコ)、他、展覧会多数。 |
|  三原聡一郎 Soichiro Mihara アーティスト。1980年東京生、現在、京都を拠点に国内外で活動。テクノロジーと人間との関係性を問うシステムをアート作品として提示している。主な展覧に「the world filled with blank」(2013、クストラムム・ベタニエン、ドイツ)、グループ展に「札幌国際芸術祭」(2014、芸術の森内有島旧邸、札幌)、「SOUNDART - sound is a medium of art」(2012、ZKM、ドイツ)、「Simple Interaction - soundart from japan」(2011、ロス・スミレ現代美術館、デンマーク)等。欧州文化首都「Pilsen 2015」との連携事業「OPEN AIR」へ、日本との相互派遣アーティストとして招聘。 |  ミカル・カブ Michal Cab コンセプチュアルアーティスト、パフォーマー、音楽家。1980年チェコ生まれ。プラハ芸術アカデミー映像学部(FAMU)でオーディオビジュアルを研究し、現在、同アカデミーの博士号を取得。音と映像、慎重さと素朴さ、独創的な共同と徹底した個人作業(という異なる性質をもつもの)との間を行き来する作品を制作。主にPure Dataによるオープンソフトウェア、コード、フィードバックを用いて演奏、制作を行う。欧州文化首都「Pilsen 2015」との連携事業「OPEN AIR」との相互派遣アーティストとして遊工房アートスペースへ招聘。 |
|  町田久美 Kumi Machida 画家。1970年群馬県高崎市に生まれる。1994年多摩美術大学絵画科日本画専攻卒業。2006年 アーティスト・イン・レジデンス・プログラム「ARKO」(大原美術館、岡山)で滞在制作。2008年 文化庁芸術家在外研修員としてデンマークで滞在制作。欧州文化首都「Pilsen 2015」との連携により、ArtCamp 2015 (西ポヘミア大学、チェコ・ブルゼニ市)に講師として派遣。国内外で個展、グループ展多数。 |  辻 真木子 Makiko Tsuji 遊工房アートスペース、女子美術大学大学院アートプロデュース研究領域修士2年。1991年生まれ。2014年(大学4年時)遊工房アートスペースでインターン実施後、同AIRのスタッフとして従事。2014年に西ポヘミア大学(チェコ・ブルゼニ市)で開催されているArtCampに受講生として参加。2015年には遊工房よりArtCamp運営局・インターンとして派遣された。 |
|  萩原さとみ Satomi Hagiwara 「ファーム・インさぎ山」代表。1948年3月生まれ。県立春日部女子高校卒。自動車部品会社勤務を経て、1997年に自宅を開放した。田舎暮らし体験「かあちゃん塾／ファーム・インさぎ山」を開設。野菜づくり、味噌づくり、郷土料理を基本に、昔あそびなどを取り入れた環境教育、食育、農村文化を伝える活動を行っている。 |  三上清仁 Kiyohito Mikami アーティスト、AIR Onomichiディレクター、光明寺會館代表、なかつ美術館ディレクターを兼任。1973年鹿児島生まれ。2005年から広島の尾道に住み、2007年から小野環とのユニット「もうひとり」で、尾道の斜面に多くある空き家や空き地などをステージにしたアーティスト・イン・レジデンス事業を2年に1度開催しながら、国内外で作家活動を行う。現在、5回目となるAIR Onomichi、「Scab 鯖 / AIR 2015」を開催中。 |
|  森 純平 Junpei Mori PARADISE AIRディレクター、建築家。1985年マレーシア生まれ。2011東京藝術大学大学院建築専攻修了。2014年東京藝術大学美術学部建築科教育研究助手。在学時より建築から時間を考え続け、舞台、展覧会、等状況を生み出す現場に身を置く。現在は、松戸を拠点に「PARADISE AIR」、「SITE project」の企画運営など、建築と文化をつくることを生業とする。 |  菅野幸子 Sachiko Kanno 国際交流基金コミュニケーションセンター プログラム・コーディネーター、AIRネットワーク準備会。グラスゴー大学美術史学部装飾美術史コースディプロマ課程及び東京大学大学院人文社会系文化資源学研究修士課程修了。ブリティッシュ・カウンスルを経て現職。プログラム・コーディネーターとして、「アーティスト・イン・レジデンス」や「芸術と社会」をテーマとした各種シンポジウムや交流プログラムを手がけるとともに、国際文化交流に関わる助言、コンサルテーションを行う。 |
|  柴田尚 Hisashi Shibata 特定非営利活動法人 S-AIR代表、北海道教育大学教授、AIRネットワーク準備会。1999年、札幌アーティスト・イン・レジデンスを立ち上げ特定非営利活動法人S-AIRとして法人化(2005)。現在までに34カ国84名以上の滞在制作に関わり、同団体は平成20(2008)年度の世界交流基金地球市民賞を受賞。NPO法人アートNPOリソリ理事、Res Artis総会2012実行委員会委員を歴・兼任。共著に「指定管理者制度で何が変わるのか」(水曜社)、「廃校を活用した芸術文化施設による地域文化振興の基本調査」(共同文化社)。 |  日沼禎子 Teiko Hinuma さいたまトリエンナーレ2016プロジェクトディレクター、女子美術大学准教授、AIRネットワーク準備会事務局。1999年から国際舞台芸術センター・青森設立準備室、2011年まで同学芸員を務め、アーティスト・イン・レジデンスを中心としたアーティスト支援、プロジェクト、展覧会を多数企画、運営する。 |

[お申し込み方法]

11月4日(水)10:00から11月10日(火)17:00まで、さいたまトリエンナーレ2016公式ウェブサイトの入力フォームよりお申し込み下さい。http://saitamatriennale.jp/
また、22日(日)フォーラム終了後に懇親会を開催しますのであわせてお申し込み下さい。(主催: AIRネットワーク準備会) ※参加費2,000円(予価)を当日会場でお支払い下さい。



【関連プログラム】さいたまトリエンナーレ2016プレイベント

HomeBase Project SAITAMA 2015

滞在期間:10月30日(金)―11月27日(金)

オープン・ハウス(公開プログラム):11月20日(金)―24日(火)

移動型国際アーティスト・イン・レジデンス「HomeBase Project」を岩槻区・人形の東玉社員寮にて実施します。期間中6名のアーティストによる成果発表「オープン・ハウス」を開催。併せてご来場下さい。

【参加アーティスト | Artists】

エイドリアン・ブリュン | Adrian BRUN(アルゼンチン / オランダ | Argentina / The Netherlands)

潘逸舟 | Ishu HAN(中国 / 日本 | China / Japan)

飯島浩二 | Koji IJIMA(日本 | Japan)

パリ・レガキス | Paris LEGAKIS(ギリシャ | Greece)

アナット・リトウィン | Anat LITWIN(アメリカ / イスラエル | USA / Israel)

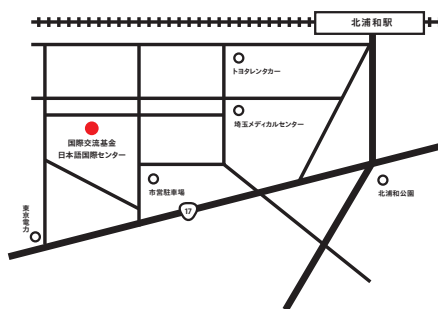
三田村光土里 | Midori MITAMURA(日本 | Japan)



ACCESS

会場案内

国際交流基金日本語国際センター



11月22日(日)
全体会

〒330-0074

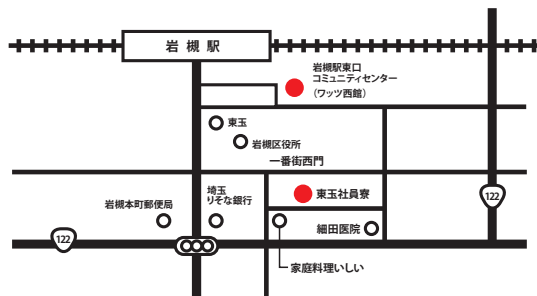
埼玉県さいたま市浦和区

北浦和5-6-36

Tel: 048-834-1180

アクセス: JR京浜東北線

北浦和駅西口より徒歩8分



11月23日(月/祝)分科会&オプションルツアー

岩槻駅東口 コミュニティセンター

〒339-0057

埼玉県さいたま市岩槻区本町3-1-1

Tel:048-758-6500

アクセス: 東武アーバンパークライン(野田線)

岩槻駅より徒歩1分

人形の東玉 社員寮

〒339-0057

埼玉県さいたま市岩槻区本町3-10-2

アクセス: 東武アーバンパークライン(野田線)

岩槻駅より徒歩3分

東京方面から岩槻駅へお越しの方は、JR大宮駅で東武アーバンパークライン(野田線)にお乗り換えください。大宮駅より岩槻駅までは約11分。

さいたまトリエンナーレ2016とは



**SAITAMA
TRIENNALE
2016**
さいたま トリエンナーレ 2016

2016年9月24日[土]-12月11日[日]

126万人が生活するさいたま市に、世界に開かれた創造と交流の現場をつくりだすことを目指す国際芸術祭。テーマは「未来の発見!」。アートを鑑賞するだけでなく、共につくる、参加する芸術祭です。まちの成り立ちや知られざる自然、土地の歴史など、生活都市ならではの魅力が見える、市内のさまざまな場所が会場となります。国内外のアーティストたちが発見する、多様で多彩なさいたま。市民の皆さん、観客の皆さんとともに、自分たちのこれからの未来を発見していきます。2015年度はプレイベントとして、本番となる2016年に繋がるプロジェクトを市内各所で展開します。

主催:さいたまトリエンナーレ実行委員会

問い合わせ先(受付時間 平日8:30~17:15)

さいたまトリエンナーレ実行委員会事務局

(さいたま市 スポーツ文化局 文化部 文化振興課 トリエンナーレ係)

〒330-9588 埼玉県さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号

Tel: 048-829-1225 Fax: 048-829-1996 Mail: bunka-shinko@city.saitama.lg.jp

詳しくはウェブサイトへアクセス!

<http://saitamatriennale.jp/>

このイベントの開催に要する経費は217万円です。(国庫補助金を差し引いたさいたま市の負担額は、147万円です。)